

仮称：市民サービス施設の建築計画の概要について (オンライン報告会)

令和3年1月30日に予定されていた第3回ワークショップが、コロナ感染拡大防止の観点からやむをえず延期となったため、ワークショップで報告予定であった「仮称：市民サービス施設」の建築計画の概要についての報告会をオンライン形式で実施しました。

開催概要

日時：令和3年3月20日（日） 14：00～15：15

参加者：ワークショップ参加者 19名

弘前大学 北原先生、土井先生

黒石市総務部総務課（鳴海、五戸、藤本、佐山、西谷、工藤）

受注者 梓設計（渡邊、土井、岩崎、内川）

都市環境研究所（大野、酒井、下山、西村）

蟻塚建築設計事務所（蟻塚）

アルキメディア設計研究所（高橋）

プログラム

1. 挨拶
2. 報告会の趣旨説明（3分）
3. 報告（35分）
 - ・市民意向の建築計画への反映
 - ・建築計画の概要
4. 質疑応答（20分）
5. 弘前大学北原先生・土井先生コメント（15分）
6. 今後の進め方（2分）

質疑応答

1. 施設計画概要

質問①：外の通路の融雪に関してはどのようなシステムを考えていますか？

回答： 通路の融雪については、基本的には、入口部分、人が通る部分についてはロードヒーティングを検討していますが、具体的にどの程度導入するかは、コストも含めて今後詳細に検討していきます。ロードヒーティングの方法については、地下水を循環させるシステムを検討しています。

2. 市民意向の反映

質問②：産業会館に隣接の駐車場は何台予定でしょうか？

回答： 所有者の方との協議を進め、準備段階であり、使用できる面積も含めて、今後検討を進めていきます。可能性としては10～20台が想定されます。

質問者：敷地内の駐車場が13台と少ないので、なるべく多く停められるといいと思います。

3. 窓口、執務室計画

質問③：職員が出向く形態でサービスを行っても問題ない程度の職員が常時在駐しているということですか？

回答： 住民票の発行や税務など、市民の方の窓口に係る課室は、全て当施設に集約することで検討しているため、常駐する職員の人数については問題ないと考えています。

質問④：ワンストップ窓口を目指す中で、転入や転出の際に教育委員会などの手続きも必要となりますが、それらにも対応するのでしょうか。

回答： リモートで遠隔での相談や手続きを可能にするなど、デジタル化を進める中で対応していきたいと考えています。

質問⑤：窓口のワンストップについて、隣の座席の人とのプライバシーを保つためにどう運営していくのでしょうか。例えば、税金滞納者に対して指導している隣で婚姻届けの提出をしていたりなど、次の手続きの待ち時間があれば聞こえてしまうのではないのでしょうか。

回答： ワンストップ窓口では、原則証明書の発行等の簡易・短時間の手続きのみを行い、また、隣席での手続き内容が分からないよう配慮します。加えて、税金の滞納相談など、よりプライバシーに配慮が必要な案件については、2階の相談室等での対応を想定しています。

質問⑥：市職員の力量によって、同じタイミングで同じ手続きをしたのに終わるタイミングが違くと、苦情につながる可能性があるのではないのでしょうか。

回答： 隣席での手続き内容が分からないよう配慮するとともに、職員の能力向上により同じ手続きで対応時間に差異が生じないよう努めます。

質問⑦：保育園入園や児童手当の現況届等、100人/日超が窓口に来た場合、当該業務だけで窓口を占領する可能性があり、課室に人がいなくなるなど、人員不足とならないか。

回答：すべての手続きを1階で行うのではなく、質問にあるような特殊事情については、2階の窓口にも案内するなど、混雑度合いに合わせて運用を変えていきます。

4. 市民交流スペース計画

質問⑧：1階あずまし広場に書架が設置されていることはとても嬉しいです。市立図書館の運営計画では、まず公民館を中心に福祉施設など連携先を増やしたいという意向がパブリックコメントで示されました。当施設においても、ただ書籍を置くだけではなく、担当職員も置いて、分館的な役割をもたせていくという可能性はあるでしょうか？

回答：現時点では、そのような検討は進めていませんが、今後の検討の余地はあると考えています。

質問者：まち育てギャラリーを1階に持っていけば、2階のスペースに図書コーナーを持っていくことも一つの考え方ではないかと思います。その方が職員の設置や管理がしやすくなるのではないかと思います。

5. その他

質問⑨：建物の外観は、こみせのような黒石市を感じるような外観ですか？全体、内装のイメージのテーマ的なものを教えていただけますと嬉しいです。

回答：中町の伝統的建造物群保存地区をはじめとする、黒石の伝統的な町並みを踏まえ、準防火地域の大規模建築物に課せられた現代の基準を守るという課題に向き合いながら、むしろこれからの黒石の町並みを先導するようなデザインになることを目指しています。

具体的には、外観は、伝統建築に沿った凛とした佇まいとしつつ、随所に木目を用いることで、親しみやすく温かみのある印象とし、一部をガラス壁とすることで、内部の様子や光が外部にあふれ、賑わいを発信する、「まちの灯(あかり)」となる施設を目指します。

内装は、木質化を行い、市民が集う「陽だまり」のような居心地のよい空間を目指します。

また、横町側及び県道側に面する部分には「こみせ」を、(仮称)市民サービス施設、かぐじスクエア、産業会館を「回廊こみせ※」をそれぞれ設置することで、施設利用者や歩行者の安全性・快適性の確保と、既存の町並みとの調和を目指します。

※「回廊こみせ」は、かぐじ広場にあるような屋根が架かった歩行者空間のことを指します

①北原先生コメント

本日お話いただいたような建物が、黒石のまちなかに出てきたら面白そうだという期待感があって良いと感じました。

大切なのは、建物が完成する前から活動がはじまっていくということです。土井先生から市民活動に必要な紙折り機やパソコンができるスペースがあると良いという話が出ましたが、ハード的な空間は決まっても、その中に本当にどのようなものがあると良いのか議論するような市民のワーキングなど、4月以降に建物が完成するのをワクワクと待ちながら、皆で検討していくことが必要なのだと思います。建物を彩っていくディテールは、これからの市民と行政との連携から生まれていくので、そのようなことを考えていけると良いと思います。

まちそだてギャラリーや多目的大会議室など、これまでの市役所の中には無かった機能であり、その機能がこれからできる施設の目玉になる訳なので、空間をつくったことが結果なのではなく、空間にどうみんなが関わっていくか、市民が様々なアイデアを持ち寄りながら、何らかのグループや今回のワークショップから繋がる形で、皆さんで議論できると良いと感じます。

今はコロナウイルスの関係があるため、オンラインで集まっているが、コロナでなくてもオンラインを活用すれば、対面ではなくても簡単に集まって議論することができます。空間がなくても物はできていくので、オンラインも活用しながら、建物が完成した後に、こんなことを試してみたいということを議論していけると良いと思います。今回のオンラインでの開催方法は、4月以降にも生かせるのではないのでしょうか。

ワンストップの窓口については、常駐している職員がいるのかという高校生の意見はもっともだと感じます。あの空間を使い切るには、市民だけではなく、そこを一番使う職員がどう使いこなしていくかがとても重要です。この建物の平面計画が出来上がった段階で、どのようなインテリアが必要で、どのように執務を行っていくのか、ということの本気で考える必要があります。

図書館の分館的な役割についてのご意見もありました。そういったこともこれから議論することが重要です。実際問題としてどうしていくのか、せっかくいい建物ができるのだから、こんな運営、こんな活用をしていこうということを、建物が完成するまでの間に、時間がかかってもいいから詰めていく必要があります。これからのことがとても重要です。

また、本日はあまり話が出ていませんでしたが、(仮称)市民サービス施設を含むまちなかの大きな計画として、エリアリノベーションプランがあります。本日の説明では、周辺との連携として、産業会館とつなぐこと、駐車場の周辺との連携、横町側の交流館が楽しそうな場になっていきそうだという話がありました。また、次のステップとして本庁舎の改築があります。エリアリノベーションプランには、産業会館や道路を挟んだ本庁舎側との連携、あるいはかぐじやこみせで上手くつなぎながら、前町側との連携を図っていくという理想形が示されています。理想形はすぐに詰めていくことができませんが、今回の計画がいずれは周辺に飛び火することを頭に入れて、周辺計画を動かしながら、少しずつリノベーションによるまちなかプランが完成に近づいていくということを、行政や市民の方々、今日集まった方々に覚えておいてもらいたいです。今回の建物ができることで、東側、北側、南側がどう

動いていくのかをオンライン等も活用しながら、皆で議論していく形を輪知れないでもらいたい。良い体制で動いているので、ここで終わりではなく、これからに期待しながら市民の皆さまと共に見ていきたいと考えていますので、市役所はじめ、建築設計等に係る方々は大変だと思いますが、よろしくをお願いします。

②土井先生コメント

大筋は、市民の皆さまの意見を反映したプランになっている印象を受けました。

「C 施設への機能配置の必然性が低い」とした意見の扱いが気になっており、工房や作業場、パソコンの貸出は設備、予算的に厳しいのでしょうか？

(黒石市：多目的室など、作業をできる場所の提供はできます。また、free Wi-Fi も検討しています。)

全国にも市民活動支援の機能を持つ施設はあるが、紙折り機、印刷機などの市民活動の基本的な道具を設置してほしいという観点の意見だったのかもしれないと思います。パソコン等を用意するのは難しいのは理解できるが、市民活動を支援する機能を少しでも入れられると良いと感じます。

また、焚火、焼き芋などの火は人を集める力がある。常設でなくても良いので、秋や冬に暖をとるために、ポータブルな焼き芋器のようなものを今後検討していくとしても良いではないでしょうか。今回組み入れなかったからといって、すぐに無くしてしまうのではなく、寒い季節に集まって暖をとるような、交わる機能については引き続き検討していただきたいです。

役所窓口について、市川市を例としたワンストップサービスは、役所側が連絡体制等のソフトフェアを内部で作り上げなければいけない点は大変さもあると思いますが、発想自体は素晴らしいと感じました。ハードはよくわかりましたが、ソフトは今後市民の皆さまにも加わっていただきながら構築していく部分であり、ソフトの検討を進める中で、空間のディテールについても今後深く検討していくことになると思います。

最も申し上げたいことは、あずまし広場が大きなホールのような空間であり、現在の案ではフリースペースのような空間になっていて、個々が思い思いの過ごし方ができるいい場所だと感じます。一方で、おそらく最も市民が行き来する場所であるため、市民活動や様々なアクティビティなどの小さな活動がいろいろな場所で行えるようなブースのようなものがあるとよいと思いました。

関連して、2階のまち育てギャラリーは1階にあったほうが人の目に触れやすく良いのではないのでしょうか。2階にギャラリーがあっても、わざわざ目的を持って行くことになるため、通りがかりに見ることができたり、加わることができる方が良いと感じます。もう少し市民の動きが見えるよう、八戸市のハッチのような、市民の動線と活動が交わるような空間のつくりなどを意識して。既に活動している人とふらりと訪れた人の交流を促すようなレイアウトなどを、今後検討していただけると良いと感じました。